

診療報酬全体で0.94%減

22年度予算案 新規国債36兆円

2022年度の当初予算案の大枠が22日、固まった。予算案を閣僚間で最終

12/23 読み

調整する同日の「大臣折衝」で、一般会計の約3分の1を占める社会保障費は21年度の当初予算からの伸びを4400億円に抑え、36兆2700億円程度とするなどが決まった。一般会計の歳出総額は107兆6千億円程度で、10年連続で過去最大を更新する。

▼3面=首相裁定で決着 鈴木俊一財務相と閣僚らの22日の折衝で、社会保障費などが合意された。診療報酬では医師らの人件費などの部分で0・43%引き上げる一方、薬価を1・37%マイナス0・94%とした。来年度に「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者になり始めるなど、社会保険費は8月末の概算要求

段階では6600億円程度の増加が見込まれていた。薬価の引き下げなど、この増加額を3分の2程度に抑える。

税収は過去最高の65兆400億円程度、新規国債発行額は36兆9300億円

程度を見込む。国の借金の元利払いにあてる国債費は24兆3400億円程度で、21年度から5800億円ほど増やす。

税収で21年度当初より7

兆7900億円程度という大幅増を見込むのは、個人消費や企業業績がコロナ禍から立ち直りつつあるとみるため。国債の新規発行額は21年度当初より6兆6700億円程度減り、2年ぶりに前年度を下回る。予算案は24日に閣議決定する。

(編原謙、吉田貴司)